

第3回 八代・天草シーラインに関する勉強会

議事要旨

1. 日時

令和7年8月7日（木）10:00～11:00

2. 場所

熊本県庁企画振興部会議室

3. 出席者

- ・ 八代河川国道事務所 事務所長
- ・ 熊本県 交通政策課長
道路整備課長
- ・ 八代市 総務企画部長
- ・ 上天草市 副市長（企画政策部長 事務取扱）

4. 議事要旨

- ・ 地域の目指す道路の全体像を整理するため、今後数回にわたって、八代・天草シーラインの整備に関係の深い分野について深掘りすることを確認した。
- ・ 熊本県の観光の現状、県計画との関係、対象地域における観光の現状について確認した。
- ・ 次回、第4回勉強会においては、各市の観光計画や関係団体へのヒアリングを踏まえた、観光分野における「地域が実現したい姿」の取りまとめを行う。

5. 主な発言

〔八代市〕

- ・ 取りまとめについては、八代市・上天草市だけではなく県南地域の市町村や各団体などの意見を取り入れて整理してはどうか。

〔上天草市〕

- ・ 観光という点で、県南各地の横のつながりをシーラインは生み出せるのではないかと。各地域の観光モデルコースなどをつなげることが必要。

〔熊本県〕

- ・ 熊本県に降り立った後の交通利便性をどう上げていくかが、県南・天草地域へのさらなる誘客を図る上で重要。
- ・ 同地域の航空や鉄道等、他の交通モードの状況も踏まえつつ、地域全体がつながった後の姿を見据えたうえで、議論を深めていくことが重要。

〔八代河川国道事務所〕

- ・ 今後は、対象地域の観光計画や戦略的な取り組みについて、具体的な方向性を把握する必要がある。観光協会や地元事業者等、意見を丁寧に拾い上げ、地域が実現したい姿を整理していくことが重要。

第3回 八代・天草シーラインに関する勉強会

日 時：令和7年8月7日（木）

場 所：熊本県庁企画振興部会議室

議 事 次 第

1 開会

2 議事

- 規約改正について
- 熊本県の観光の現状
- 県計画との関係について
- 対象地域における観光の現状
- 意見交換

3 閉会

〔配付資料〕

- 設立趣意書【資料1】
- 規約・構成員【資料2】
- 説明資料【資料3】

やっしろ あまくさ
八代・天草シーラインに関する勉強会
設 立 趣 意 書

八代・天草シーラインは、令和3年6月に熊本県が策定した熊本県新広域道路交通計画において、必要な検討を進める構想路線に位置付けされている。

八代・天草地域は、南九州西回り自動車道や熊本天草幹線道路の高速ネットワークが整備されており、構想路線である「八代・天草シーライン」と併せた道路ネットワークが一体として機能することにより、当該地域と都市間の交流が広がり、地域産業や観光のポテンシャルが更に高まることが期待される。

更には、近年、激甚・頻発化している自然災害に対して、災害からの迅速な復旧と、早期の日常生活・経済活動の再開を見据え、被災後もすぐに機能する道路ネットワークが求められている。

このような情勢を踏まえ、国、熊本県及び関係自治体が連携して、八代・天草シーラインのあり方などについて検討を行うため、「八代・天草シーラインに関する勉強会」を設立するものである。

八代・天草シーラインに関する勉強会 規約

（名称）

第1条 本会は、「八代・天草シーラインに関する勉強会」（以下「勉強会」という。）と称する。

（目的）

第2条 八代・天草地域において、地域の現状や課題等を整理し、当該地域全体の幹線道路網のあり方を検討し、「八代・天草シーライン」の整備方針を議論することを目的とする。

（組織）

第3条 勉強会は、別紙に定める構成員をもって組織する。

（運営）

第4条 勉強会は、構成員が必要に応じて招集する。

- 2 勉強会の運営、進行は事務局が行う。
- 3 勉強会の事務局は、国土交通省 八代河川国道事務所 工務第二課、熊本県 交通政策課、八代市 企画政策課、上天草市 企画政策課に置く。
- 4 事務局は、円滑な運営にあたりとともに、議事録を整理する。

（規約の改正）

第5条 本規約の改正は、勉強会の決議によらなければならない。

（雑則）

第6条 この規約に定めのない、勉強会の運営について、必要な事項は勉強会に諮って定める。

附則 この規約は令和6年3月28日から施行する。

この規約は令和7年8月 7日から施行する。

八代・天草シーラインに関する勉強会
構成員

所 属		役 職
国土交通省 八代河川国道事務所		事務所長
熊本県 交通政策課		課長
熊本県 道路整備課		課長
八代市 総務企画部		部長
上天草市 企画政策部		部長
(事務局)	国土交通省 八代河川国道事務所 工務第二課 熊本県 企画振興部 交通政策課 八代市 総務企画部 企画政策課 上天草市 企画政策部 企画政策課	

八代・天草シーラインに関する勉強会

第3回 勉強会資料

令和7年8月7日(木)

目 次

1. 検討会の概要	1
2. 熊本県の観光の現状	4
3. 県計画との関係について	13
4. 対象地域における観光の現状	16
5. 次回の勉強会について(案)	28

●第2回勉強会で出された主な意見

第2回勉強会の主な意見	対応案(第3回勉強会以降で整理)
● 市内で計画されている工業団地や市の企業誘致の戦略を含めて、地域の全体像を整理した方がよい。(八代市) ● 県南地域には災害時における支援物資の集積拠点が無く、八代・天草シーラインがあれば本市を拠点として支援物資の横展開も考えられる。(八代市) ● 県南地域は、面積や人口に対して観光の割合が現状低くなっているが、ポテンシャルはもっと高いと思う。(上天草市) ● インバウンドが増えている。観光・企業立地分野等の伸びしろの部分で深掘りができるのではないか。(熊本県) ● 県や市町村の地域計画等で掲げている将来計画を取り込んで、分野毎に深掘りしていければと思う。(熊本県) ● 地域のポテンシャルを生かしきれているのかどうか再整理し、今後、地域の全体像をどう示していくのか検討していく必要がある。(八代河川国道事務所)	➤ 対象地域の企業誘致の戦略等を整理し、今後、地域が目指す道路の全体像について整理する。 ➤ 対象地域の地域防災計画を踏まえ、将来計画や横展開の可能性などを検討する。 ➤ 対象地域の観光の現状を踏まえ、観光面におけるポテンシャルについて深掘りする。 ➤ 県や市の観光部局等へのヒアリング等により、伸びしろの部分について深掘りする。 ➤ 分野毎(観光、産業、生活/地域づくり、防災等)の県・市の将来計画を整理し、深掘りする。 ➤ 分野毎の地域のポテンシャル等について整理し、地域の目指す道路の全体像を整理する。

1. 検討会の概要

これまでの勉強会の概要(第1回、第2回)

日時	概要	内容	意見
第1回 (R6.3.28)	立ち上げ 現状把握	・勉強会設立 ・八代・天草地域の現状の把握	・八代・天草地域に限らず、人吉・球磨地域や水俣・ 芦北地域も含めて課題の整理を行うべき。【八代市】
第2回 (R7.1.31)	現行把握 地域課題 整理	・他の県南地域も含め、統計データを 踏まえた地域の状況・課題(人流・物流・ 企業誘致・防災・救急医療)を整理	【観光】 ・観光面のポテンシャルはもっと高い。【上天草市】 ・インバウンドも含めて伸びしろの部分で深掘りができる。【県】 【産業】 ・工業団地の造成や企業誘致の戦略も含めて地域の全体像 の整理が必要。【八代市】 【全体】 ・地域のポテンシャルを生かしきれているのかを再整理し、 地域の全体像をどう示していくのか検討が必要。【国】 ・県や市町村の地域計画等の将来計画を取り込み、 分野ごとに深掘りが必要。【県】

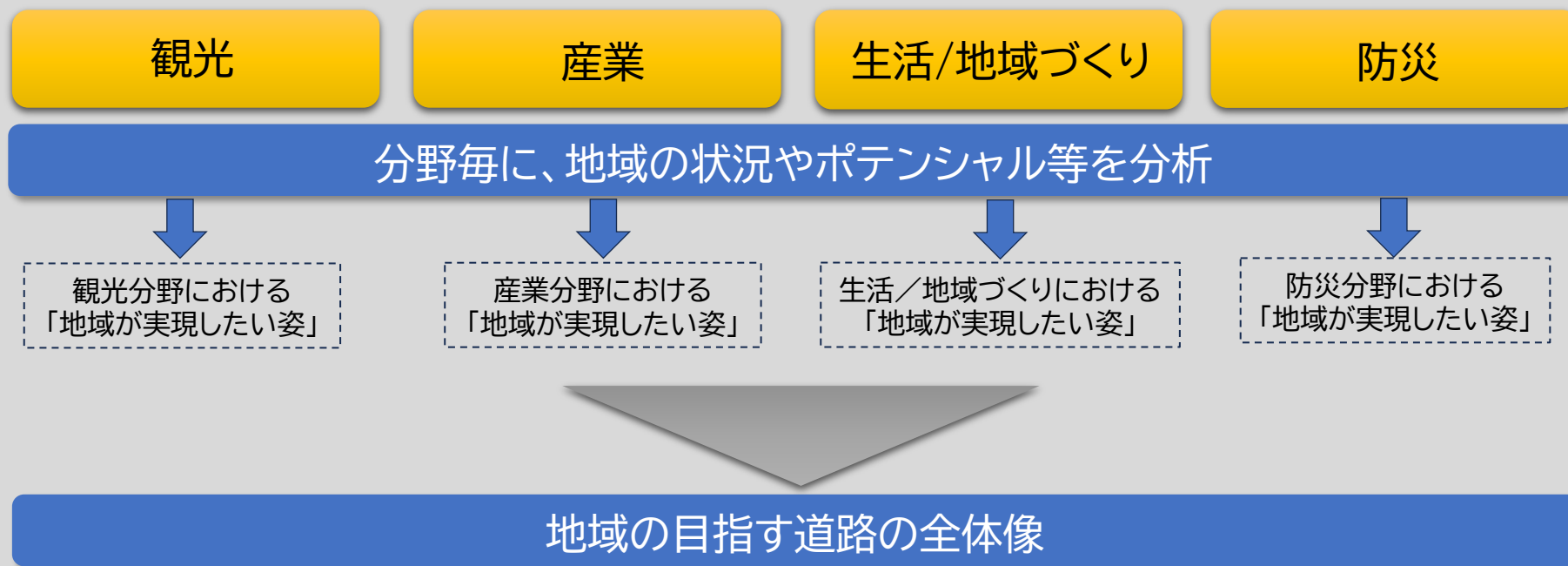
1. 検討会の概要

今回(第3回)の検討範囲

- 今後の進め方の確認

地域の目指す道路の全体像を整理するため、今後数回にわたって、シーライン整備に関係の深い分野について深掘りする。

<第3回以降の進め方イメージ>



- 今回(第3回)の検討内容

第2回において、特に観光面におけるポテンシャルの高さについての意見が出ていることから、今回(第3回)は、熊本県の観光の現状や県計画を踏まえた対象地域の現状・ポテンシャルの確認を行う。

2. 熊本県の観光の現状

- 人口減少や少子高齢化が進展する一方で、半導体企業進出等の影響による訪日外国人旅行者の増加や個人旅行の比率の上昇等の旅行形態や価値観の変容が起きている。
- 観光消費額の増加や環境整備等の課題に対し、本県の強みを活かした観光地域づくりに取り組む必要がある。

熊本観光を取り巻く現状

- 人口減少と少子高齢化の進展
 - ・経済規模の縮小、人手不足の深刻化
 - リピーターの獲得による観光客数の安定的な確保、観光消費額の拡大
- 旅行形態や価値観の変容
 - ・個人旅行の比率の急上昇、新たなスポットの観光地化
 - 環境の変化に対応できる体制づくり
- 訪日外国人旅行者の急激な回復
 - ・TSMCの進出に加え、熊本空港国際線の増便、クルーズ船寄港の回復
 - インバウンド需要獲得への対応
- デジタル化、DXの浸透
 - ・消費行動の変化、IT・デジタル化への対応の遅れ
 - デジタル化・DXの推進による観光産業・観光関連団体の業務効率化・基盤強化、旅行者の利便性向上
- 持続可能な観光に対する意識の高まり
 - ・世界的な「持続可能な観光」への関心の高まり
 - 地域や環境と調和した観光地域づくり

熊本特有の 現状・強み

- 被災地域の創造的復興
- TSMC進出による台湾との交流増
- キャラクター・マンガ資源の顕在化
- 海外にも通用するくまモン人気
- 源泉数全国第5位の温泉や生産高全国第5位の農業を始めとした国内外に誇れる地域資源や産業

熊本観光の課題

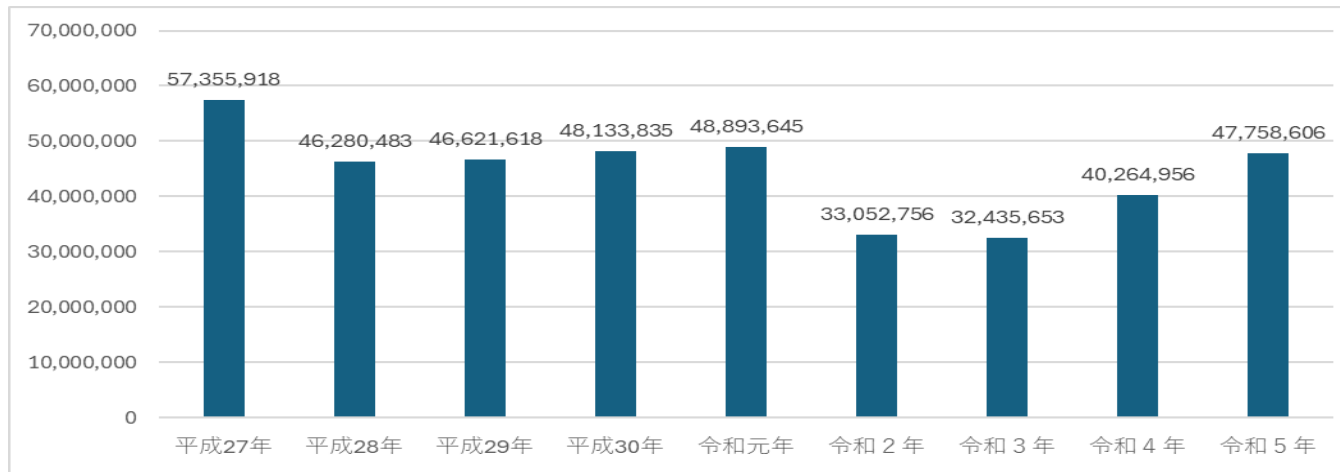
- 観光消費額の増加
 - ・観光の高質化、高付加価値化
 - ・ニーズを踏まえた魅力あるコンテンツの充実
 - ・富裕層へのアプローチ
- リピーター確保に注力した観光
 - ・本県において観光を持続可能な産業へと進展させていくためにはリピーターの確保・拡充が極めて重要
- 効果的な情報発信
 - ・ターゲットに応じた戦略的プロモーション
 - ・タイムリーな情報発信
 - ・情報へのアクセス向上
 - ・観光客への継続的な情報発信
 - ・マーケティング活動に基づく施策の実施
- 誰もがストレスなく旅行ができる環境整備
 - ・2次交通の整備、観光地へのアクセス向上
 - ・多様な観光客の受入体制整備や観光インフラ整備等による利便性向上
- 人手不足解消及び観光人材の確保と育成
 - ・デジタル化やDXの導入による生産性向上
 - ・マネジメント人材、デジタル人材、おかみ人材等、観光人材の確保・育成

2. 熊本県の観光の現状

- 延べ入込客数は、コロナ禍前とほぼ同程度の水準まで回復している。
- 月別の推移を見ると、5月(GW)や夏休み期間が多い傾向にある(コロナ禍を除く)。

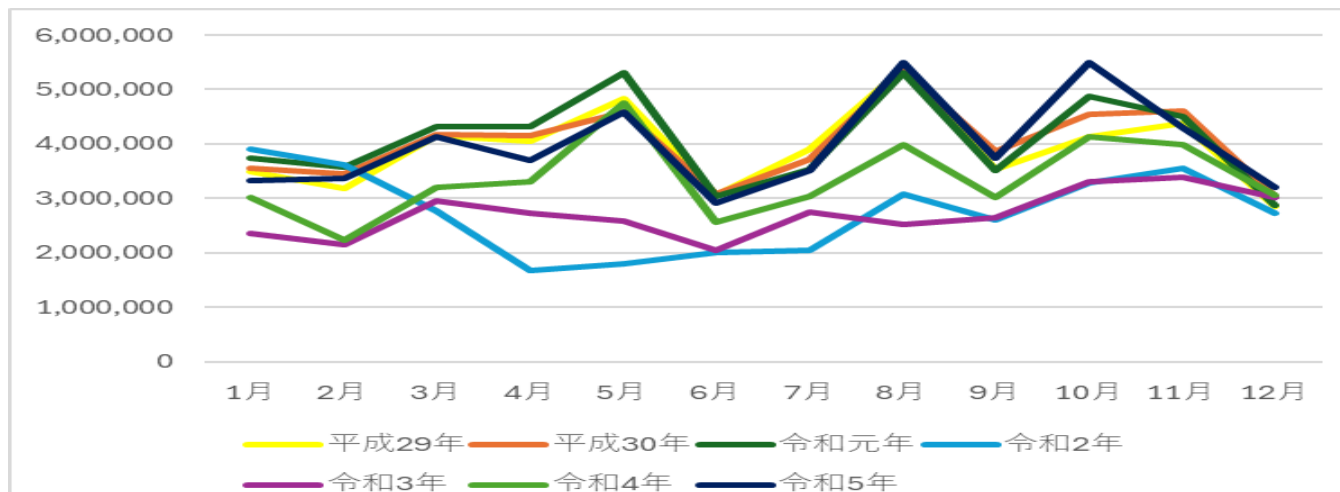
延べ入込客数の推移(年別)

単位:人



延べ入込客数の推移(月別)

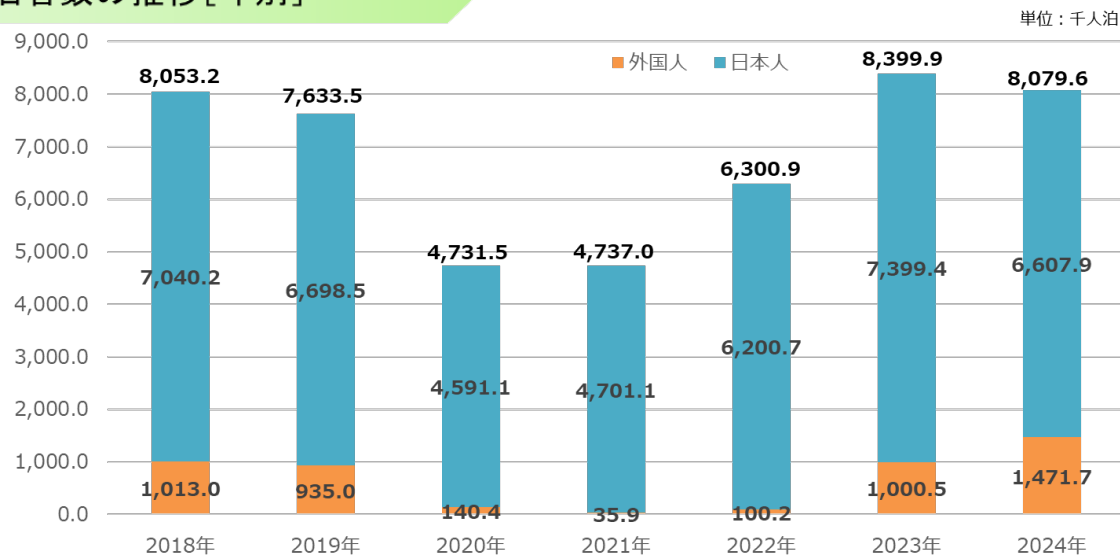
単位:人



2. 熊本県の観光の現状

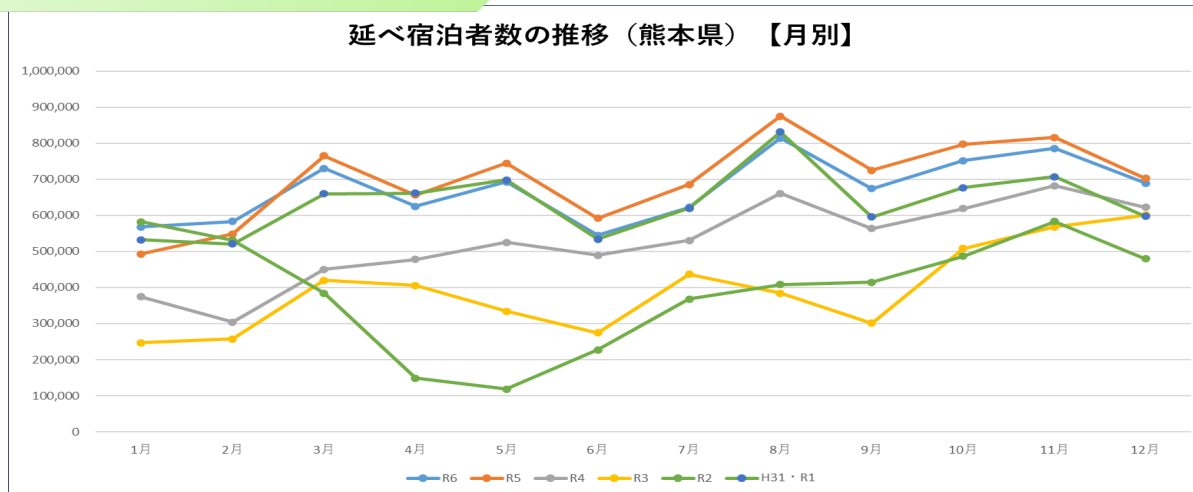
- 延べ宿泊者数は、コロナ禍前と同程度の水準まで回復している。
- 月別の推移を見ると、夏が延べ宿泊者数のピークとなる傾向にある(コロナ禍を除く)。

延べ宿泊者数の推移[年別]



延べ宿泊者数の推移[月別]

単位：人

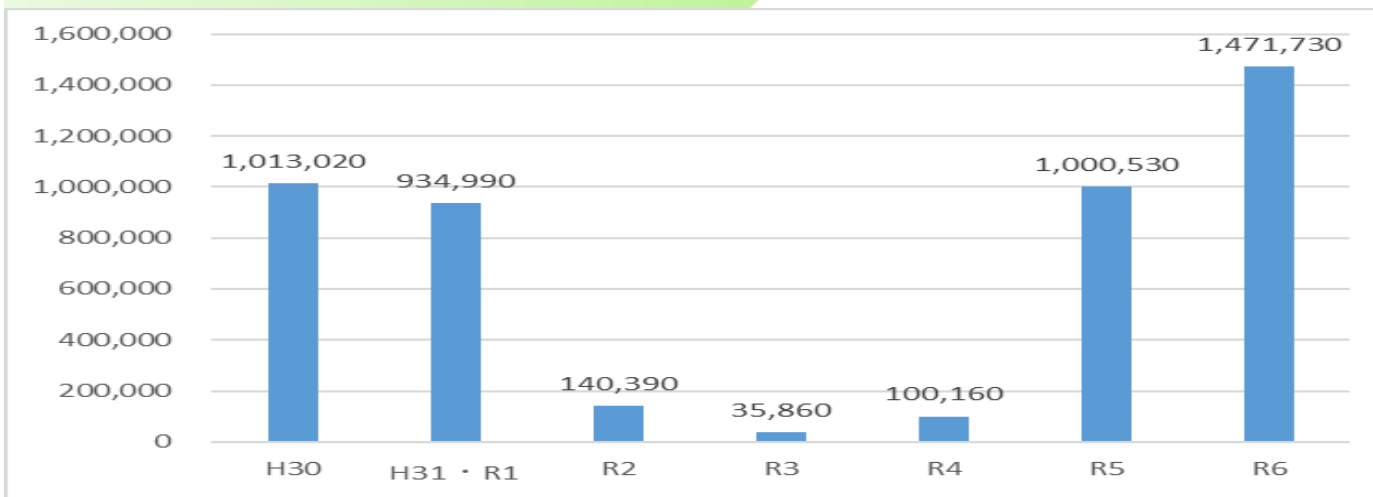


2. 熊本県の観光の現状

- 外国人延べ宿泊者数は、コロナ禍から回復し、半導体企業進出等の影響により増加傾向にある。
- 月別の推移を見ると、春・秋の延べ宿泊者数が多い傾向にある(コロナ禍を除く)。

外国人延べ宿泊者数の推移[年別]

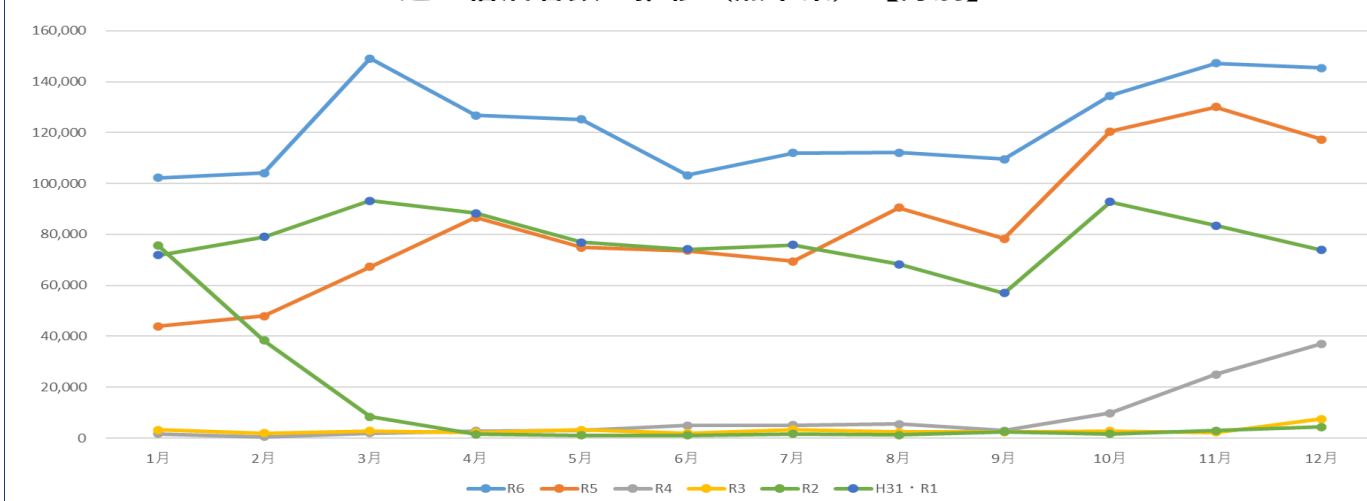
単位:人



外国人延べ宿泊者数の推移[月別]

単位:人

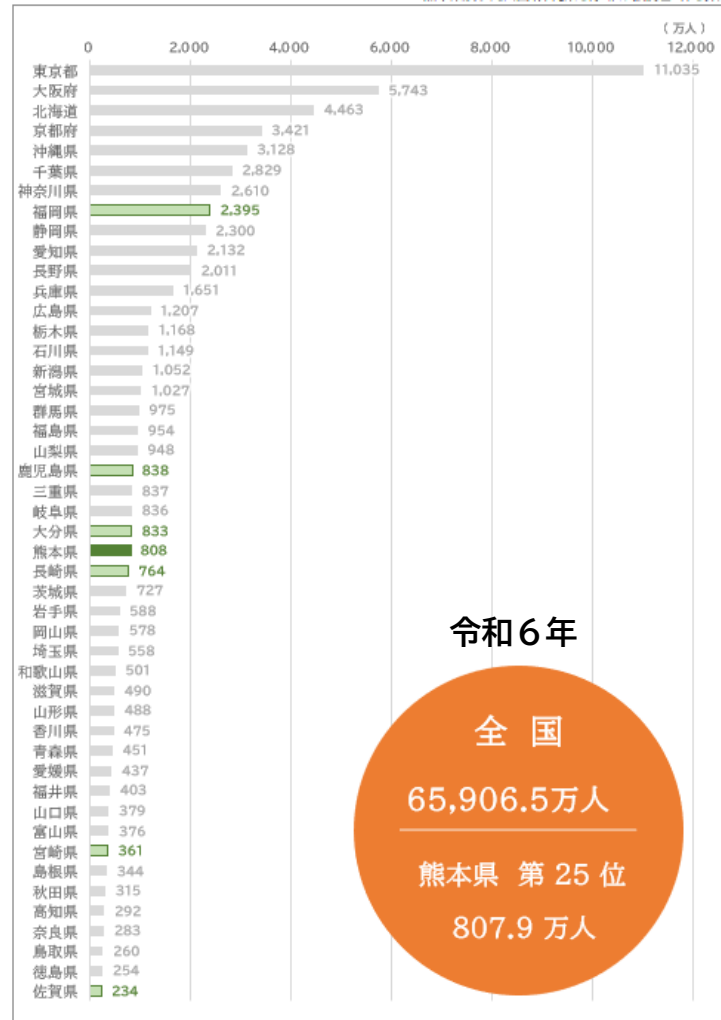
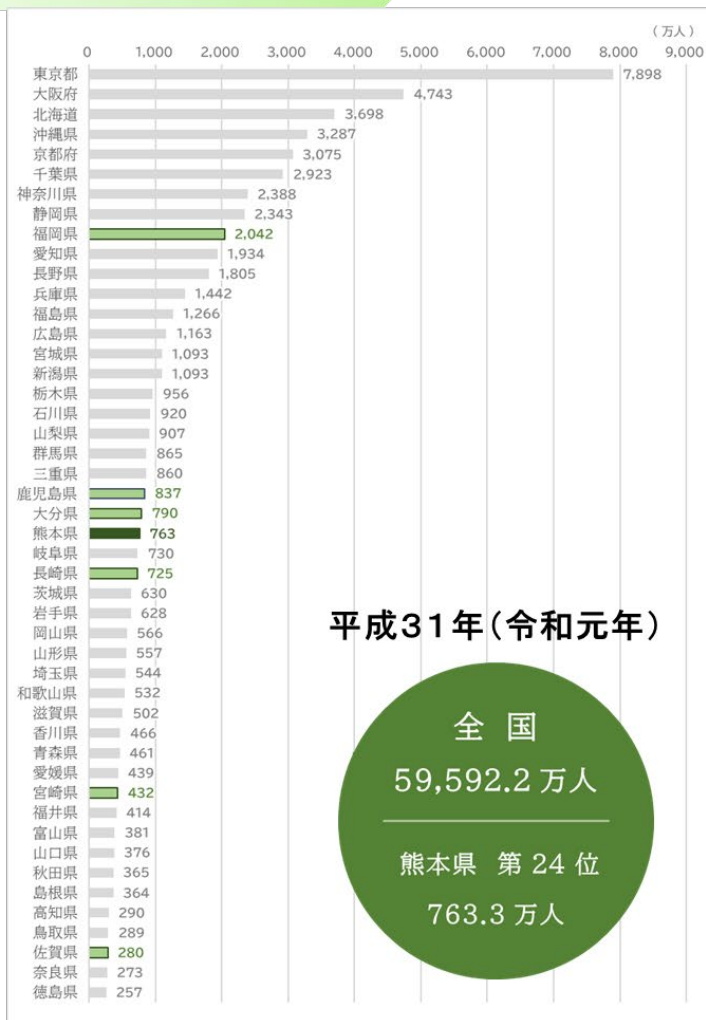
延べ宿泊者数の推移(熊本県)【月別】



2. 熊本県の観光の現状

- 令和元年の本県の延べ宿泊者数の全国順位は24位、九州内順位は4位となっている。
- 令和6年の本県の延べ宿泊者数の全国順位は25位、九州内順位は4位となっている。
- 令和元年と令和6年の本県の延べ宿泊者数をを比較すると、約6%増加している。

延べ宿泊客数(全国比較)

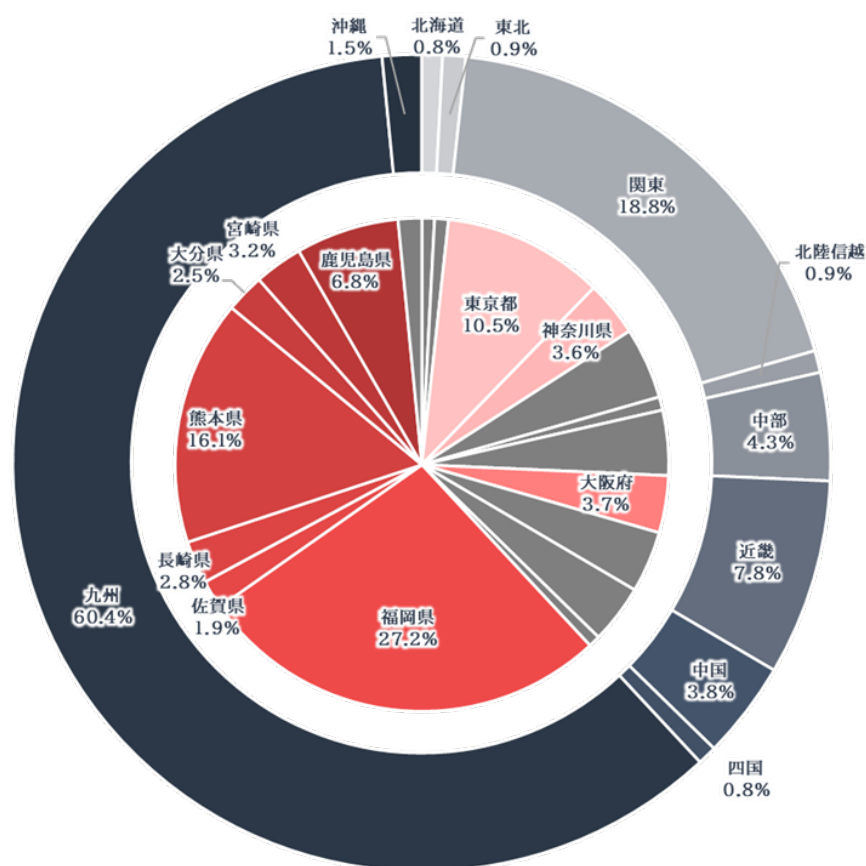


2. 熊本県の観光の現状

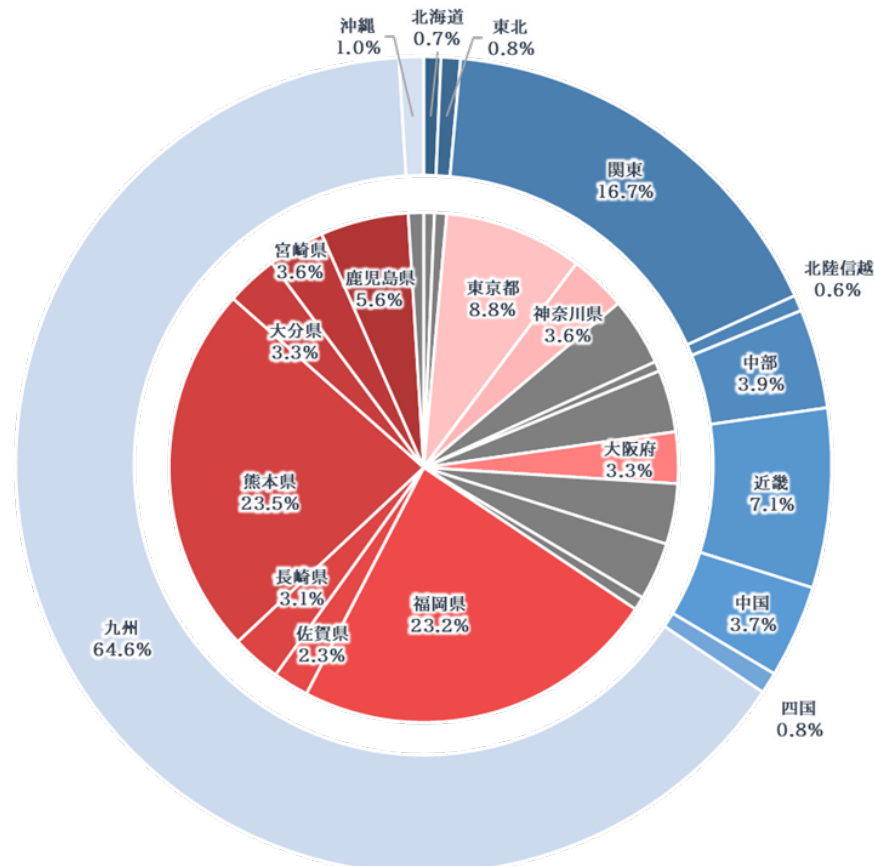
- 本県の延べ宿泊客の国内発地別構成比によると、全体の約6割が九州からの受け入れとなっている。
- 令和元年と令和5年を比較すると、九州及び熊本県内の延べ宿泊客の割合が上昇している。

延べ宿泊客の国内発地別構成比

※観光庁「宿泊旅行統計調査」から集計したもの。
(従業者数100人以上の施設)



平成31年(令和元年)



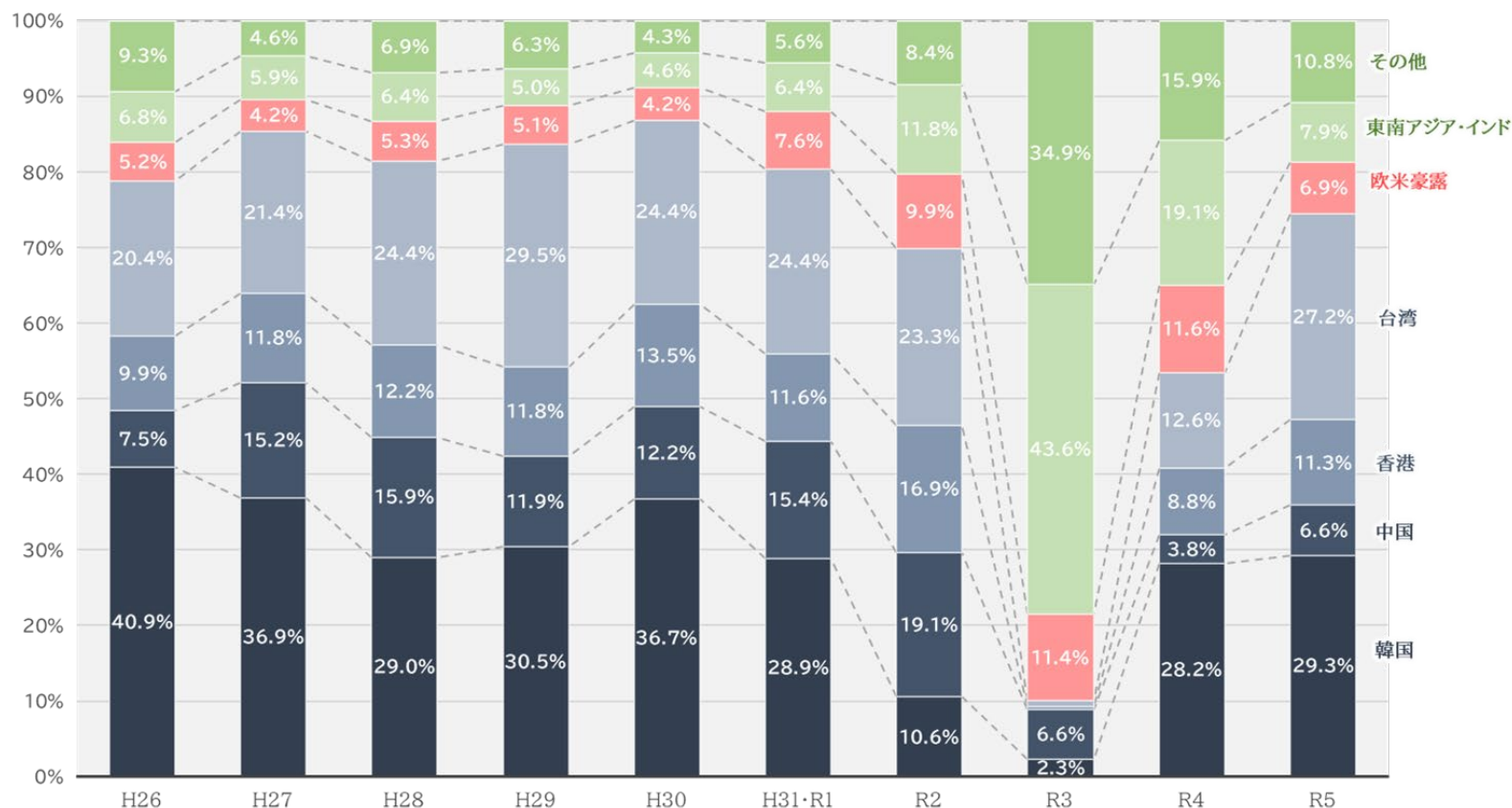
令和5年

2. 熊本県の観光の現状

- 国籍(出身地)別外国人延べ宿泊者数の割合は、コロナ禍を除くと、東アジアが7～9割を占めている。
- 韓国が最も多く全体の29.3%を占め、次いで台湾、香港の順で多かった。
- 台湾については、前年に比べ、延べ宿泊者数の伸びが最も大きい。

国籍(出身地)別外国人延べ宿泊者数の推移

(千人)



〈補足：国籍(出身地)別外国人延べ宿泊者数について〉

観光庁が実施する「宿泊旅行統計調査」の推計結果。国籍(出身地)別は、10人以上の従業者数の施設が調査対象であるため、国籍(出身地)別の計と“外国人延べ宿泊客数”は一致しない。

* 欧米豪露・・・アメリカ、カナダ、イギリス、ドイツ、フランス、ロシア、オーストラリア、イタリア、スペイン

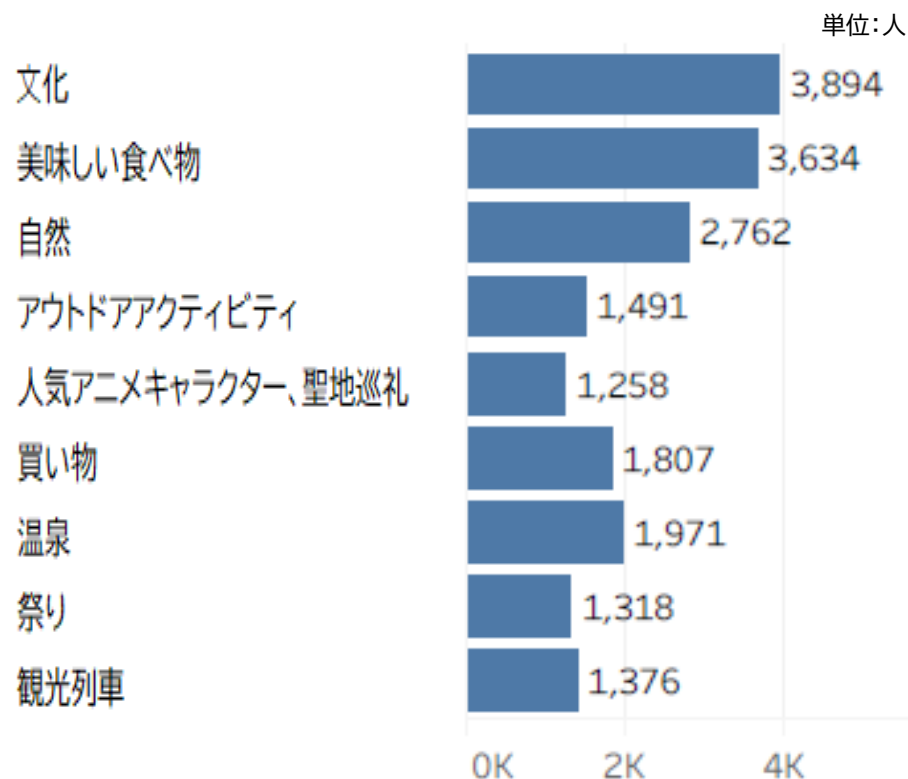
* 東南アジア・インド・・・シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、フィリピン、インド

(インドネシア・ベトナム・フィリピンは平成24年まで、イタリア・フィリピンは平成26年まで「その他」に含まれる)

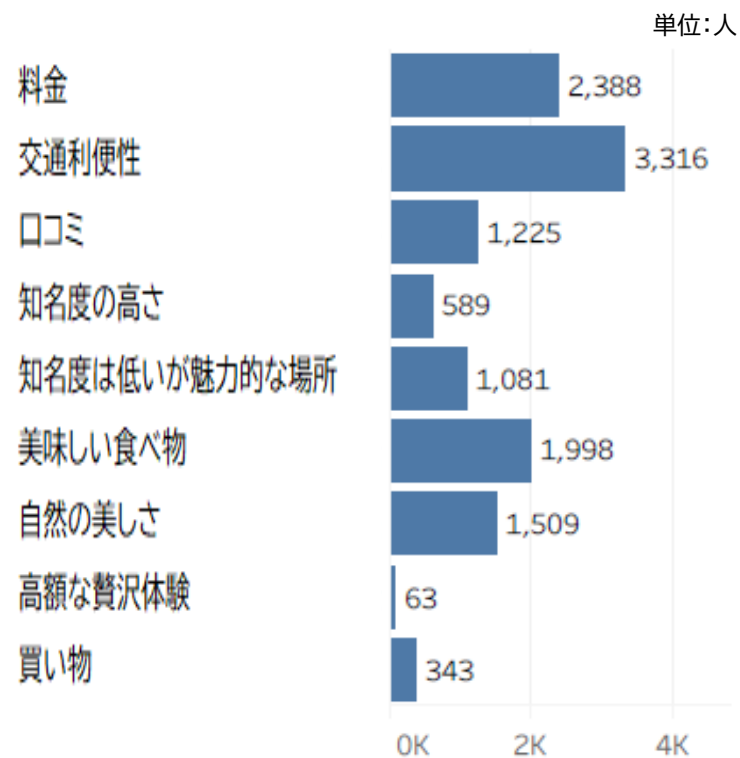
2. 熊本県の観光の現状

- 県観光振興課が実施した「2024台湾アンケート集計」(※)によれば、台湾の方が熊本で体験したいことのトップ3は、①文化、②食、③自然。
- 行き先を選ぶ際に重要視することのトップは、交通利便性となっている。交通アクセスの向上が観光に与える影響は大きい。(※)台湾(台北・高雄等)にて開催された旅行博(3回)と観光PRイベント(1回)にてアンケートを実施

1 熊本で体験したいこと



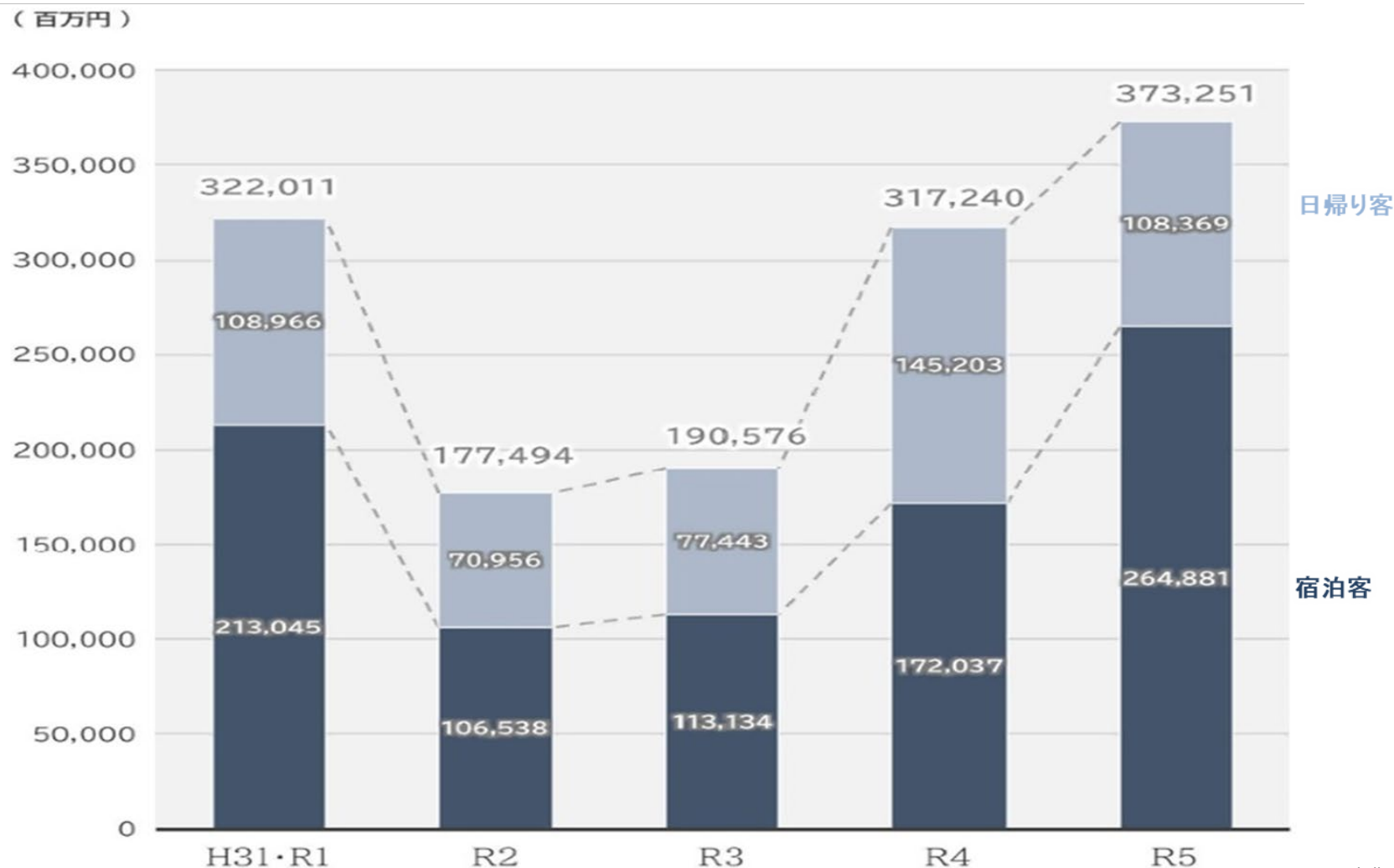
2 行き先を選ぶ際、重要視すること



2. 熊本県の観光の現状

- 本県の観光消費額は、コロナ禍前を上回る水準まで回復している。
- 近年、物価高騰の影響もあることから、当該観光消費額の伸びについては見定めが必要。

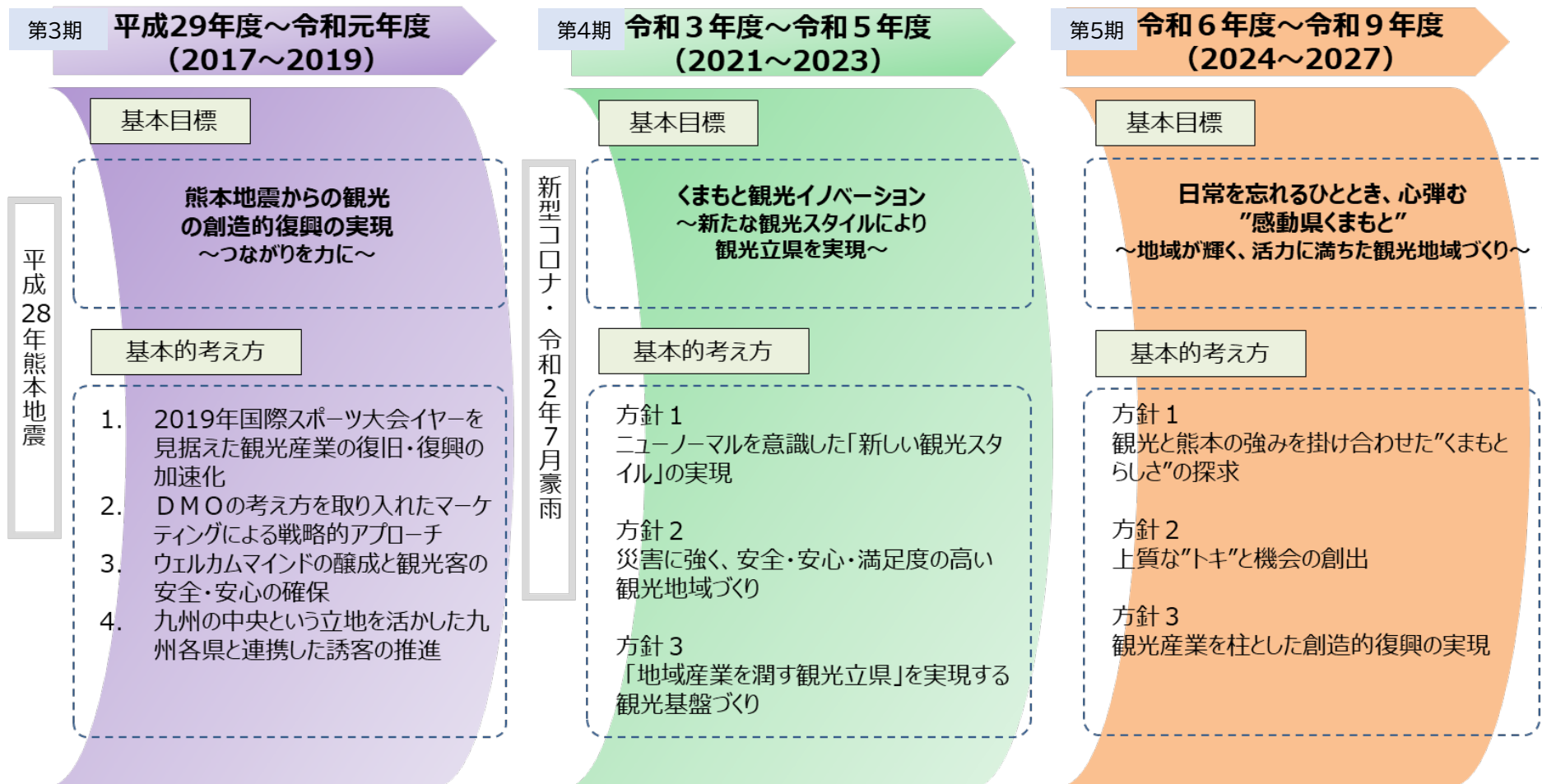
観光消費額の推移



3. 県計画との関係について

ようこそくまもと観光立県推進計画について

ようこそくまもと観光立県条例に基づき策定する観光立県の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本計画。今年1月に5期目となる4か年計画を策定。



3. 県計画との関係について

「ようこそくまもと観光立県推進計画（2024年-2027年度）」（概要）

観光を取り巻く現状と課題

- 人口減少と少子高齢化の進展
 - ・経済規模の縮小、人手不足の深刻化
 - リピーターの獲得による観光客数の安定的な確保、観光消費額の拡大
- 旅行形態や価値観の変容
 - ・個人旅行の比率の急上昇、新たなスポットの観光地化
 - 環境の変化に対応できる体制づくり
- 訪日外国人旅行者の急激な回復
 - ・T S M Cの進出に加え、熊本空港国際線の増便、クルーズ船寄港の回復
 - インバウンド需要獲得への対応
- デジタル化、D Xの浸透
 - ・消費行動の変化、I T・デジタル化への対応の遅れ
 - デジタル化・D Xの推進による観光産業・観光関連団体の業務効率化・基盤強化、旅行者の利便性向上
- 持続可能な観光に対する意識の高まり
 - ・世界的な「持続可能な観光」への関心の高まり
 - 地域や環境と調和した観光地域づくり

3. 県計画との関係について

基本目標

日常を忘れるひととき、心弾む“感動県くまもと”
～地域が輝く、活力に満ちた観光地域づくり～

数値目標

観光消費額	基準値(2019)	目標値(2027)
	3,220億円	3,750億円

1

観光と熊本の強みを掛け合わせた “くまもとらしさ”の探求

- ・国内外に誇れる熊本の地域資源や産業と観光を掛け合わせ、観光ブランド「くまもと」の確立を推進します。
- ・熊本が国内外から選ばれ、さらに選ばれ続ける観光地となることを目指します。

2

上質な“トキ”と機会の創出

- ・“今”、“ここ（熊本）”でしか体験できない「トキ消費」を意識した観光地域づくりを目指します。
- ・観光の上質化・高付加価値化に取り組み、訪れた人の満足度を高め、リピーターの獲得や観光消費を促進します。

3

観光産業を柱とした創造的復興の実現

- ・度重なる災害とコロナ禍で疲弊した観光産業の再生を支援します。
- ・コロナ禍で顕在化した多様な価値観等に対応できる足腰の強い観光地域づくりを目指します。
- ・観光産業の成長が地域経済の活性化につながり、観光産業に携わる人が生き生きと輝き、ホスピタリティ精神溢れる観光地域づくりを目指します。

I

観光資源・コンテンツの魅力向上

- 1 「観光×熊本の強み」で、“くまもとならではの（又はオリジナル）”の特別な体験の提供
- 2 全国に名だたる温泉県としてのブランド確立
- 3 周遊及び滞在の促進
- 4 知的好奇心を満たす教育旅行の誘致拡大
- 5 付加価値の高い商品の開発
- 6 スポーツを通じた地域活性化と交流人口拡大を図るスポーツツーリズムの推進
- 7 コンテンツツーリズムの推進

II

戦略的なプロモーション

- 1 ターゲットに届く効果的な情報発信
- 2 地域と連携したクルーズ船誘致
- 3 経済波及効果を高めるMICE誘致の推進
- 4 観光需要・消費喚起につながる効果的な観光情報・ECポータルサイトの活用
- 5 復興を加速化する被災地域への誘客促進
- 6 広域連携による訴求力が高いプロモーション

III

受入環境整備

- 1 多様な旅行者を受け入れられる環境の整備
- 2 観光地への移動が楽しくなるアクセスの充実
- 3 地域住民と観光客の双方に配慮した満足度の高い観光地域づくり

IV

観光産業基盤強化・活性化

- 1 持続可能な観光地域づくりを支える人材育成・確保
- 2 観光の未来を切り拓く観光産業起業家支援
- 3 生産性向上やマーケティングにつながるDX導入

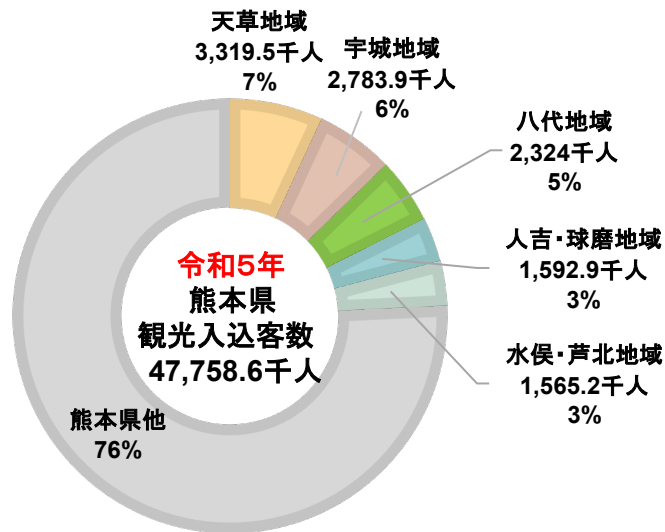
シーライン整備に特に関係のある項目

4. 対象地域における観光の現状

(1) 延べ入込客数

- 対象地域の観光客の延べ入込客数は、県全体の約24%。
- 対象地域の延べ入込客数は、コロナ禍以降回復傾向にある。

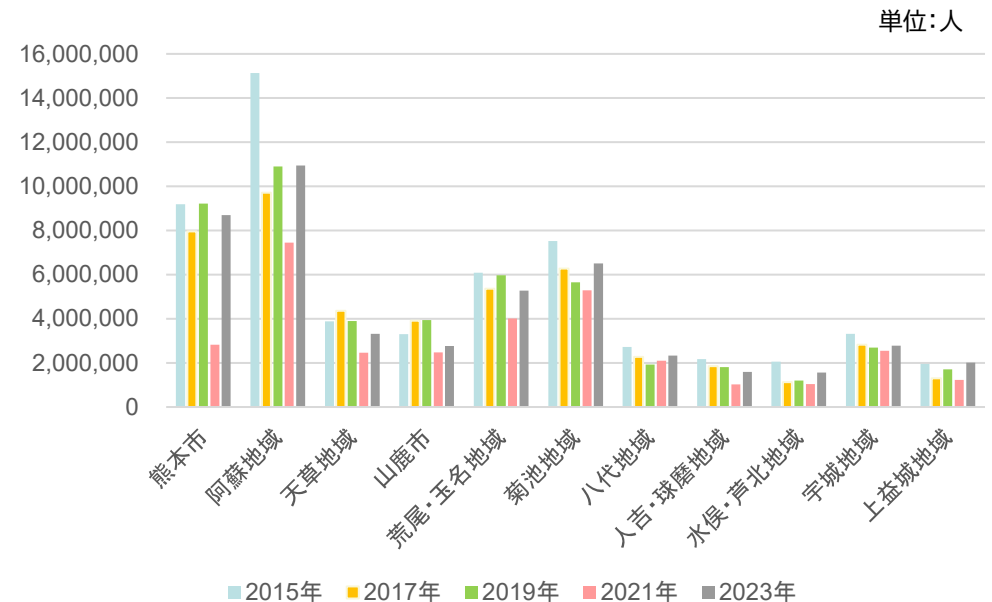
■対象地域の延べ入込客数と県内シェア



■対象地域の延べ観光入り込み客数県内シェア

データ：県観光統計BIツールより

■地域別の観光延べ入込客数の推移



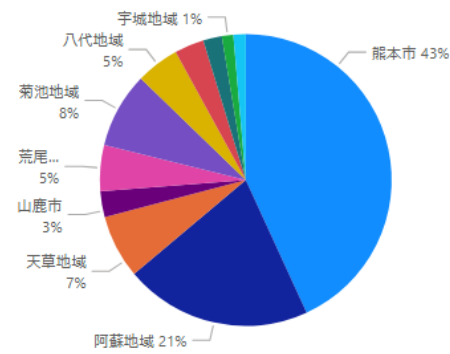
データ：県観光振興課提供資料

(2)延べ宿泊者数

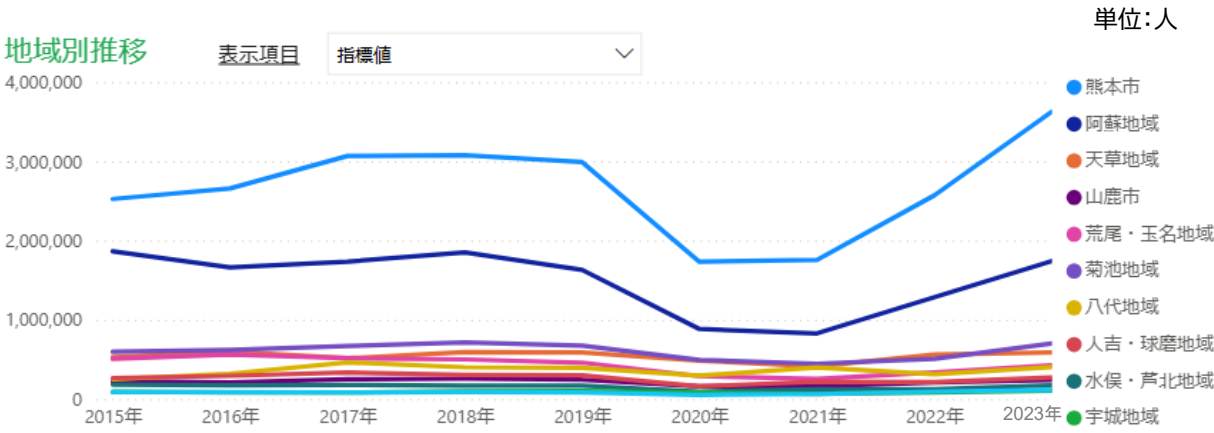
■県全体の傾向

- コロナ禍で落ち込んだ延べ宿泊者数は、県全体では回復傾向にある。
- 対象地域の観光客の延べ宿泊者数は、県全体の約18%(対象地域で最も多いのは天草地域の約7%)。

県内地域別構成比 2023年



データ:県観光統計BIツールより



データ:県観光統計BIツールより

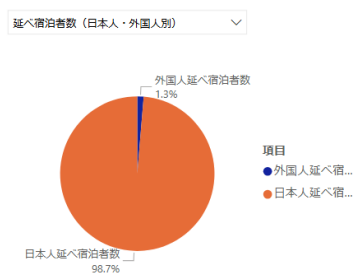
■八代地域の傾向

- ビジネス需要の堅調な推移と観光需要の回復により、前年に比べ、延べ宿泊者数が増加した。
- 国際クルーズ船が4月に初入港した「くまモンポート八代」や温泉施設の利用者数が増加している。

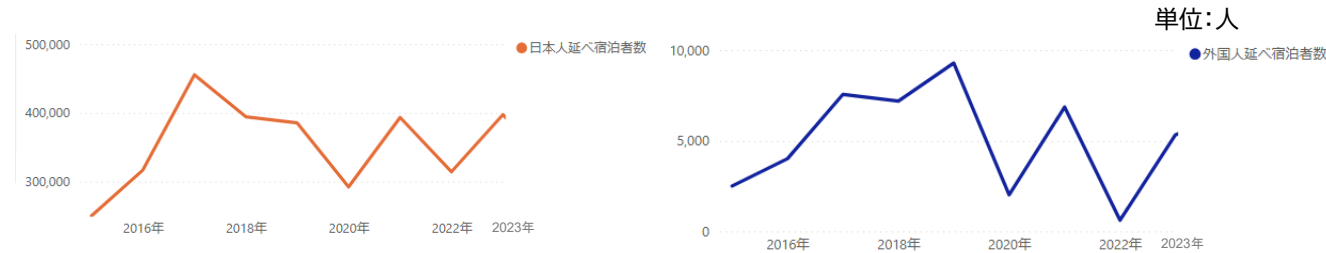
八代地域の観光データ 2023年

延べ宿泊者数 (人)	(前年比)	(県内構成比)
402,751	27.9%	4.8%
外国人延べ宿泊者数 (人)	755.6%	0.5%
延べ入込者数 (人)	6.0%	4.9%
2,324,069		

宿泊者数内訳 ※「外国人延べ宿泊者数 (国籍別)」は「熊本県」のみ表示



データ:県観光統計BIツールより



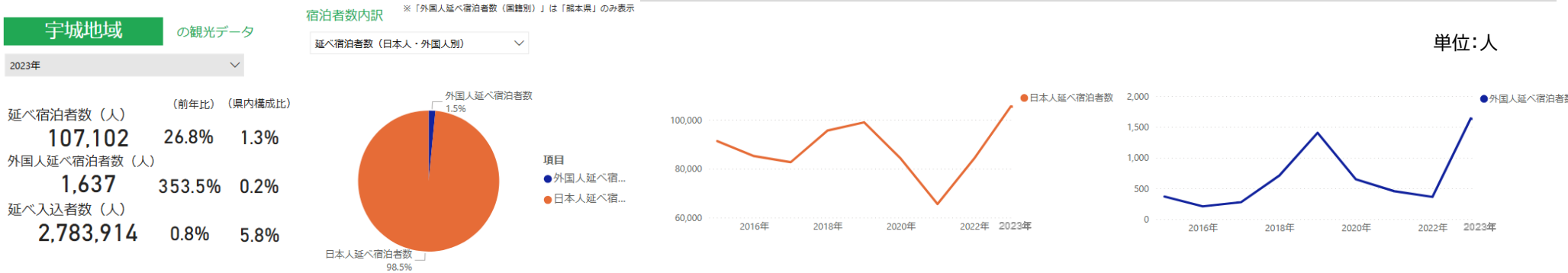
データ:県観光統計BIツールより

4. 対象地域における観光の現状

(2) 延べ宿泊者数

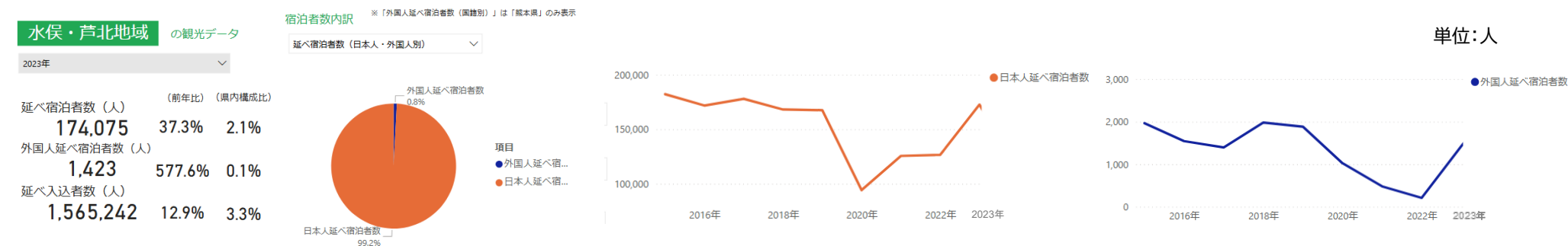
■宇城地域の傾向

- 工事需要などでビジネスホテルの稼働率は高位で推移している。
- コロナ禍以降、小規模な宿泊施設が徐々に増えており、地域の宿泊のキャパシティは増加傾向にある。
- 訪日客の客層が団体から個人客中心にシフトしている。



■水俣・芦北地域の傾向

- 行楽シーズンである10月～11月に団体旅行を中心とした来訪が回復した。
- アートなどを目的とした個人旅行や、ビジネス目的の宿泊も増加している。

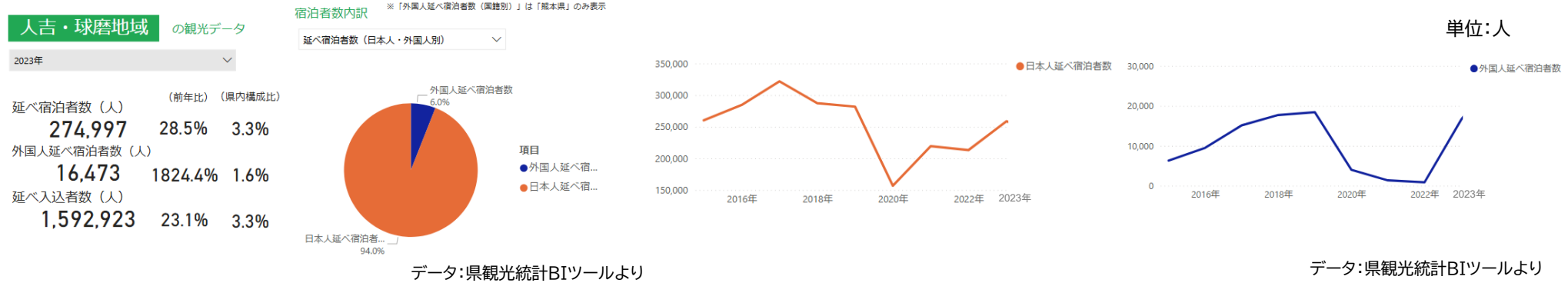


4. 対象地域における観光の現状

(2)延べ宿泊者数

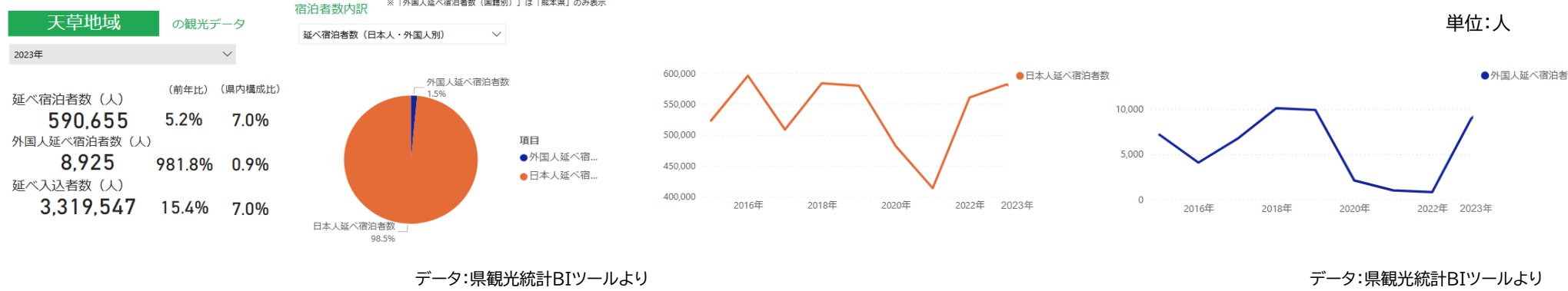
■人吉・球磨地域の傾向

- 令和2年7月豪雨で被災した宿泊施設の再開が相次ぎ、宿泊助成の効果もあったことから、前年に比べ延べ宿泊客数が増加した。
- また、人吉市の防災学習、錦町の平和教育など教育旅行が近年増加傾向にある。



■天草地域の傾向

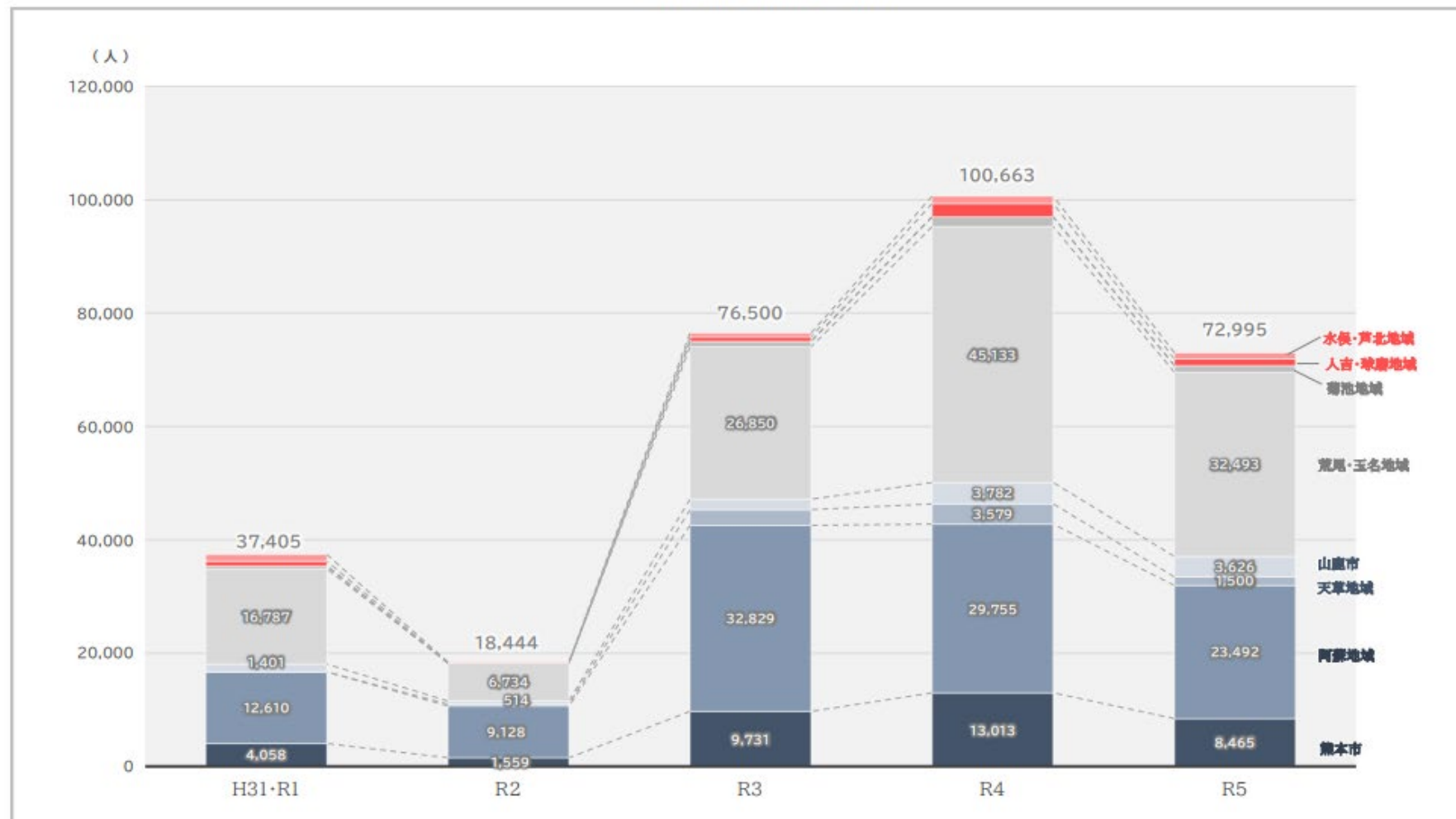
- 延べ入込客数では、コロナ禍からの着実な人流の回復が見られるものの、延べ宿泊者数が伸び悩んでいる。
- 主にレンタカーで訪れる台湾からの観光客が増えたことにより、前年に比べ、外国人延べ宿泊者数は大幅に増加している。



(3)教育旅行宿泊者数

- コロナ禍後に実施方面を沖縄や海外等に戻す影響から、令和5年は前年比で27.5%減少した。
- 対象地域については、相対的に宿泊者数が少ない状況が続いている。

② 教育旅行の宿泊者数推移



※ 農家民泊を含む宿泊者実人数

出典：R5熊本県観光統計表

(4)クルーズ船の寄港状況

- クルーズ船のバスツアーの訪問先は、「八代港」から90分圏内の「熊本市内」や「八代地域」が多い。
- 「天草地域」は、豊富な観光資源があるものの、時間の制約等から寄港地ツアーの計画が極めて少ない。

1. くまモンポート八代（八代港）へのクルーズ船寄港実績

2. くまモンポート八代のクルーズ船の寄港地ツアーの訪問先別バス台数

令和6年は32寄港（国内船2寄港、国際船30寄港）

令和6年の天草地域への訪問は9台（割合では0.3%）

（参考）県内港へのクルーズ船寄港実績

（参考）寄港地ツアーでの訪問先ランキング

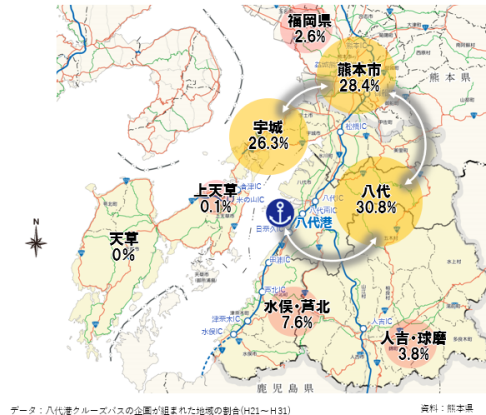
年(暦年)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
県内入港数 (海外)	66 * (65)	34 * (28)	19 * (17)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	15 (12)	39 (36)
八代港 (海外) 【うち RCL】	66 (65) 【59】	30 (27) 【17】	19 (17) 【7】	0 (0) 【0】	0 (0) 【0】	4 (0) 【0】	15 (12) 【2】	32 (30) 【5】
八代港以外 (海外)	0 * (0)	4 * (1)	0 * (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (6)

※計は延べ数

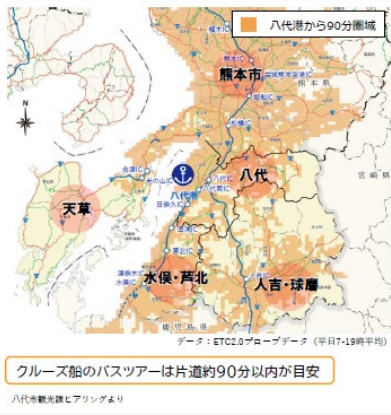
平成29年(2017)年度			平成30年(2018)年度			令和元年(2019)年度					
No.	訪問先	数	No.	訪問先	数	No.	訪問先	数			
1	熊本城・城彩苑	4,244	1	熊本城・城彩苑	3,585	1	熊本城・城彩苑	1,789			
2	八代城址公園	3,700	2	御立岬公園	772	2	高橋稲荷神社	378			
3	御立岬公園	1,460	3	妙見宮	603	3	御立岬公園	320			
4	水前寺公園	1,061	4	八代城址公園	596	4	水前寺公園	168			
5	妙見宮	698	5	日奈久温泉	416	5	八代城址公園	162			
6	青井阿蘇神社	335	6	水前寺公園	321	6	青井阿蘇神社	31			
7	高橋稲荷神社	301	7	青井阿蘇神社	227	7	八代本町商店街	27			
8	エコパーク水俣	281	8	人吉城址	220	8	人吉鍛冶屋町	24			
9	人吉鍛冶屋町	195	9	高橋稲荷神社	167	9	人吉城址	22			
10	八代本町商店街	168	10	エコパーク水俣	135	10	日奈久温泉	16			
	その他	597		その他	286		その他	52			
計	—	13,040	計	—	7,328	計	—	2,989			
寄港数	66	訪問地区べ数/隻	198	寄港数	30	訪問地区べ数/隻	244	寄港数	19	訪問地区べ数/隻	157

※八代港以外では、天草地域の港（崎津港、牛深港等）への寄港実績あり。

クルーズ船のバスツアーの行先



八代港からの90分圏



【2017～2019までの分析】
主に、中国発着のカジュアル船が寄港。寄港地バスツアーは、免税店ツアー（バス事業者が免税店から手数料を受け取り、ツアー参加者は負担なしで参加）中心で、乗客のほぼ全員が当該ツアーへ参加。

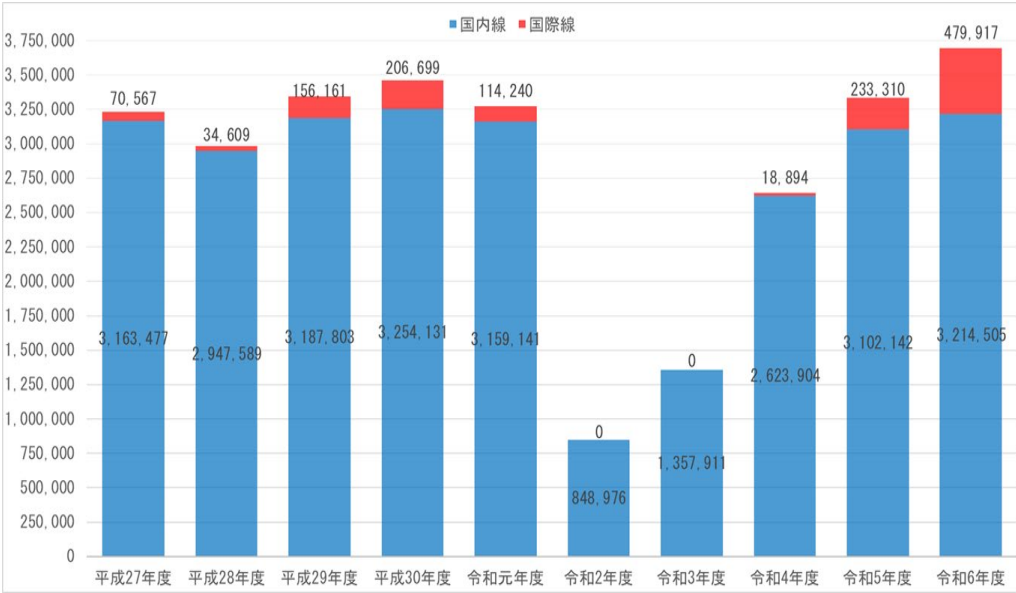
令和2～4年(2020～2022)年度			令和5年(2023)年度			令和6年(2024)年度				
No.	訪問先	数	No.	訪問先	数	No.	訪問先	数		
1	国際クルーズ寄港地		1	熊本城・城彩苑	225	1	熊本城	918		
2		2	水前寺公園	52	2	城彩苑	668			
3		3	八代城址	42	3	水前寺公園	358			
4		4	妙見宮	34	4	八代城址	246			
5		5	青井阿蘇神社	29	5	上下通り	300			
6		6	上下通り	28	6	妙見宮	144			
7		7	ゆめタウン八代	26	7	お祭りであんどん館	66			
8		8	人吉城址	18	8	ゆめタウン八代	54			
9		9	草千里	12	9	日奈久温泉	35			
10		10	白川水源	10	10	草千里	27			
				その他	140		その他	697		
計	—		計	—	616	計	—	3,513		
寄港数	0	訪問地区べ数/隻	寄港数	15	訪問地区べ数/隻	41	寄港数	32	訪問地区べ数/隻	110

【2023～2024までの分析】
中国発着は多様化するともに、カジュアル船に加え富裕層向け（プレミアム・ラグジュアリー）の寄港が増えてきている。RCL社のオフィシャルツアーは免税店ツアーを廃止し、FITの割合が増加傾向にある。

(5)阿蘇くまもと空港の旅客数の状況

- 令和6年度国内線旅客数は、約321万人で、令和5年度比3.6%増、過去最高の平成30年度比98.8%となり、概ねコロナ前まで回復した。
- 令和6年度国際線旅客数は、約48万人で、過去最高であった令和5年度比の約2倍となり、過去最高を更新した。
- 国内線は、全体で7路線・37便／日が就航。国際線は、全体で6路線・週43便が就航。

阿蘇くまもと空港の旅客数の推移(国内線・国際線)



阿蘇くまもと空港の定期便就航状況

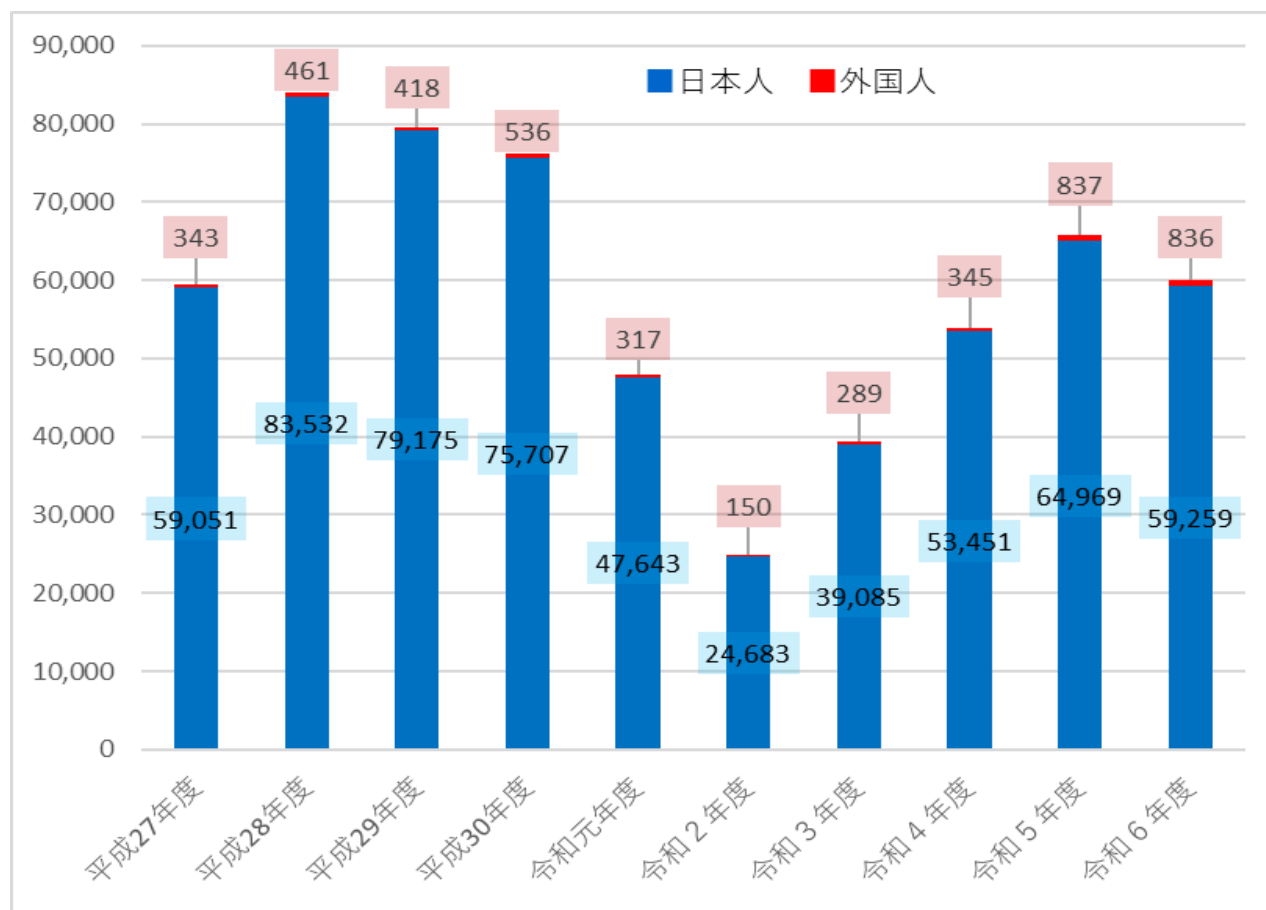
	路線		航空会社	便数 (1便=1往復)	所要時間
国内線	東京	羽田	ANA	5 (便/日)	1時間30分
			JAL	8 (便/日)	1時間35分
			SNA	5 (便/日)	1時間35分
		成田	JJP	2 (便/日)	1時間40分
	大阪	伊丹	ANA	6 (便/日)	1時間05分
			JAL	4 (便/日)	1時間05分
			AMX	1 (便/日)	1時間25分
	名古屋	中部	ANA	2 (便/日) 【運休中】	1時間15分
		小牧	FDA	3 (便/日) 【一部減便】	1時間20分
国際線	沖縄	那覇	ANA	1 (便/日)	1時間30分
	静岡	岡崎	FDA	1 (便/日) 【季節運航】	1時間25分
	天草	熊本	AMX	1 (便/日)	20分
	合計		7路線	37 (便/日)	
	韓国	ソウル	ティーウェイ航空	7 (便/週)	1時間30分
		釜山	アシアナ航空	3 (便/週)	1時間50分
	台湾	台北	大韓航空	3 (便/週)	1時間50分
		高雄	イースター航空	7 (便/週)	1時間30分
国際線	中国	台北	スターラックス航空	7 (便/週)	2時間30分
		高雄	チャイナエアライン	5 (便/週)	2時間40分
	香港	香港	チャイナエアライン	4 (便/週) ※8/2までは週3便	2時間40分
		上海	香港航空	4 (便/週)	3時間30分
国際線	中国	上海	中国東方航空	3 (便/週) ※8/20以降は2便/週	2時間10分
		合計	6路線	43 (便/週) ※8/20以降は42便/週	

出典: 第12回高速交通ネットワーク整備推進特別委員会資料 (R7.6.18)

(6)天草エアラインの旅客数の状況

- 令和6年度日本人旅客数は、約6万人で令和5年度比9%減、平成28年度比70.9%となっている。
- 令和6年度外国人旅客数は、836人で令和5年度と同水準、コロナ前の平成30年度比、300人増加している。
- 運航便数は、天草-福岡線1日3往復、天草-熊本線及び熊本-大阪線各1日1往復となっている。

天草エアラインの旅客数の推移(日本人・外国人)



4. 対象地域における観光の現状

(7)観光コンテンツ

モデルコース① 歴史を知る八代建築巡り

➤ 八代城址や松浜軒を中心とした江戸時代の情緒豊かな文化が残る八代市中心部を巡る1日コース。



(7)観光コンテンツ

モデルコース② 家族で行きたい水俣・芦北1泊2日

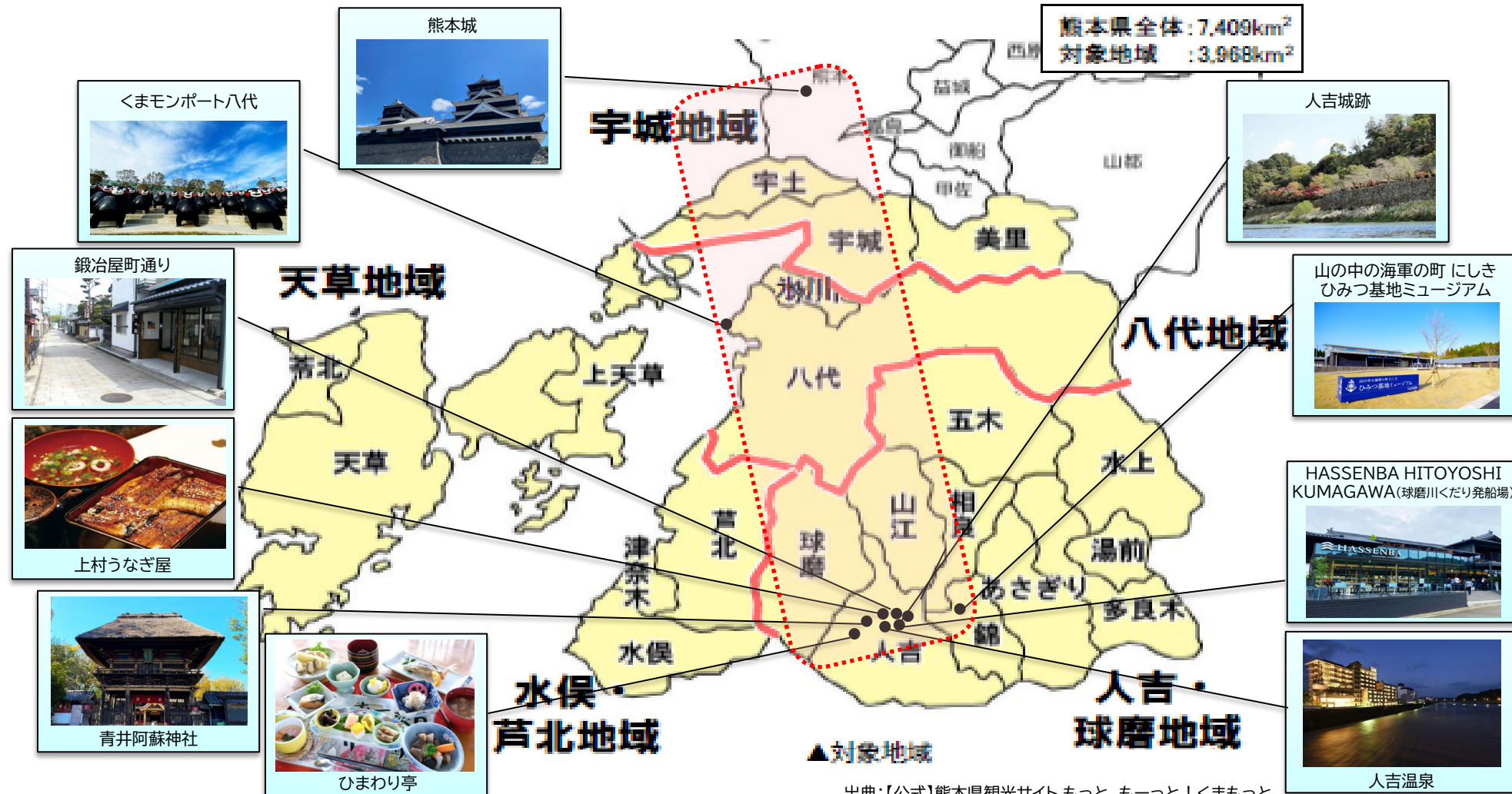
➤ 食、体験やアクティビティなど、見どころを押さえた、子どもから大人まで楽しめるようなモデルコース。



(7)観光コンテンツ

モデルコース③ 復興記念！元気です。人吉球磨

- 熊本地震からの復旧工事が進む「熊本城」と、令和2年7月豪雨から復興が進む「人吉・球磨」。
- 生まれ変わった2地域を観光しながら、復興を応援できるコース。



(7)観光コンテンツ

モデルコース④ 世界遺産探訪・天草シーサイドコース

- 世界文化遺産に登録された「三角西港」「崎津集落」をはじめ、遭遇率9割以上のイルカウォッチングや温泉、新鮮な海の幸など、天草の魅力が思う存分楽しめるコース。



- 地域の目指す道路の全体像の整理に向けて、引き続き、各分野の深掘りを行う。

今回(第3回勉強会)

- ✓ 今後の進め方の確認
- ✓ 熊本県の観光の現状や県計画を踏まえた対象地域の現状やポテンシャルの確認



次回(第4回勉強会)

- ✓ 各市の観光計画や関係団体へのヒアリングを踏まえた、観光分野における「実現したい姿」の取りまとめ